第２回播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議　議事概要

日　時	平成 27 年 8 月 17 日（月）14：00～16：00
場　所	播磨町役場第 1 庁舎 3 階 BC 会議室
出席者	【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議】 松井　昭雄（商工会） 大亀　亨　（商店主） 真木　高司（東播磨県民局　局長） 藤谷　淳一（加古川公共職業安定所　次長） 南島　和久（神戸学院大学　法学部准教授） 大塚　毅彦（明石工業高等専門学校　建築学科教授） 椴山　春夫（みなと銀行　本荘支店　支店長） 北　　幸治（労働者福祉協議会　会長） 門野　隆弘（神戸新聞社　東播支社　支社長） 荒谷　ふみ子（住民代表） 【事務局】 清水　ひろ子（町長） 三村　隆史（副町長） 角田　英明（理事） 森本　貴浩（理事） 福田　宜克（理事） 平郡　利一（理事） 高倉　正剛（理事） 岡本　浩一（企画グループ　統括） 堀江　直美（企画グループ） 濱田　祐輔（企画グループ）
欠席者	田中　靖宏（新島連絡協議会　会長） 諸鹿　良治（住民代表）

１．開会

２．町長あいさつ

３．協議事項

（事務局より資料１－１播磨町人口ビジョン骨子（案）について説明）

会　長）目指すべき将来の方向性については、様々な議論があるかと思う。人口推計について 3 種のパターンがある。赤色が合計特殊出生率 1.30、黄色が合計特出生率 1.71、紫色が合計特出生率

2.40 で、人口 3 万人を維持するには、3 人くらいは産んでいただかないといけないということである。

委　員）若年層の希望については、男性女性の両方を集計したものか。それと男性と女性を分けた数値はあるのか。また、7 割の人に結婚願望があるとなっているが、現実にはどれだけの人が結婚しており、その差をどう埋めていこうと考えているのか。

事務局）結婚願望や結婚希望については、男女を合わせた数字である。

会　長）アンケートの段階で、男女の区別があれば、別々の集計があると思うが。

事務局）後ほど、確認する。差については、今後の戦略の中で、結婚のしやすい環境整備等の施策で努めていきたいと考えている。

委　員）播磨町自身がベッドタウン化していると描かれており、将来的にベッドタウン化に対する PR したいとのことだが、製造業が高い割合を占めている中で、小売業、サービス業の比率を上げていく必要があるかと思うが、何か対応するための手段を考えているのか。

理　事）ベッドタウン化が進んでいくと指標としても出ているが、産業構造をみると、小売業、サービス業の比率は増加傾向にあると考えられる。今後ベッドタウン化が進むにあたって良好な住環境整備や子育て施策等を進める。また、土山駅前には商業施設を誘致したりと総合的に進めていきたいと考えている。

委　員）将来推計の人口パターンについて、パターン３が一番良いと考えられるのはよくわかるのだが、合計特殊出生率を 2.40 という、未だかつてない数字へ上げていかないといけないわけだが、女性人口が減少していくと推計される中でどのように説明していくのか。

町　長）どれを採用するかについては、内部で議論をしてきた。社人研の場合は、日本全国の地域性が違う中で、播磨町がこの仮説をとれるかと考えると環境的に違うのではないかと考える。またパターン２については、アンケートにより直近の町民の希望を反映しているものであるので採用した。合計特殊出生率については、平成 17 年の 1.07 から平成 22 年の 1.45 に上がった。この 5 年間で言えばかなり挽回したと考えている。残念なのは、国勢調査の年に、5 年前のデータを持って戦略を立てなければいけないことである。この 5 年間で播磨町の子育て環境が変わっていると考えている。先ほど言われた通り合計特殊出生率を 2.40 にするのは非常に困難なことであるが、戦略を立てるにあたっては、厳しい数字ということは重々承知をしているが、無理を承知で高めの数値を設定しないといけない。今年の国勢調査では、合計特殊出生率は上がっていることを期待しており、今後はどう上乗せをするかを考える。決して、一足飛びに 2.40 まで上がるのではなく、様々な施策を打ち出す中で努力はできるのではないかと考える。

委　員）アンケート結果について、アンケートについては総合戦略を作成するにあたって非常にたくさんのヒントがつまったものになるものと思うので、第 3 回までに詳細な内容を出してほしいと思う。その中で暫定結果だが、若年層の人の多くが播磨町に住みたいと思っており、その理由が播磨町に愛着があって、家族と一緒に住みたい等という思いがあることは良いと思う。ただ思いはあるのに、住める条件が整っていないような状況もあると思う。アンケート結果を見ても、町内から通勤通学がしやすいから播磨町に住みたいという期待はあるが、実際は進学してもこのエリアだけで完結できるわけではない。通勤できるような職場が見つからないとう現実を示すことも大事かと思う。結婚についても、できれば播磨町に住みたいが、経済的にも厳

しい。しかもそれを支えられるような制度が十分とは考えておられない。女性特に若年層は共働きをしないといけないけれど、女性が働きに行く条件が整っていない。そういった側面が読み取れるものである。戦略の中で、新しい施策もいろいろと盛り込んでいるが、国の予算規模を考えても様々なものに手を出すのは難しいと思う。そのなかで、現実と思いとのかい離を解消していくための手段をいかに重点的にやっていくが大事だと思う。総合戦略は目的を絞られたものであるので、絞込みをしっかりとしてほしいと思う。

理　事）アンケートについては現在集計中だが、集計が完了次第、お示しさせいただきたいと思う。後半については、「ひと・まち・しごと」ということで、「ひと」を呼び込み、呼び込むためには「しごと」がいる、「しごと」と「ひと」をドッキングしてまちを作っていくようなイメージを思っている。どうしても「ひと」というのは最初に来ると思う。めりはりをつけた戦略をしたいと思う。

委　員）基本姿勢の３について、ライフステージに合した定住の取り組みとあるが、もう１つ、ライフスタイルに合せて、住宅政策により地域内で循環して住んでいくという視点もある。若年層のアンケートの中で、親との近居や同居という答えがある。子育てのことを考えると、近居、同居できる環境は重要だと思う。もう少し住宅政策との絡みの中で人口ビジョンは考える必要があるかと思う。目指すべき将来の方向性（案）について、地域企業との交流や町内外への PR をすることも大事であるが、もう１つは CSV、共有創造価値という企業と行政や住民と一緒に社会解決をしていくことが重要になるという時代になってきている。交流も大事だが、地域の子育ての課題を企業の人たち、あるいは大学と一緒に考えるというような社会解決を一緒にしていくことが重要だと考える。人口が減少するのは仕方ないと思うが、将来の播磨町に住みたいと共感できるストーリーをどう作っていくかが大事である。

町　長）住宅政策について、職員との懇談会の中で、ある担当職員によると、買い手のいない分譲地がある。一方で、何人もの人が土地を探しているが、土地がない地域もあると聞いた。この狭い町域でもニーズの殺到する地域とそうでない地域がある。町ができるのは、周辺の環境づくりであると思う。物件自体は町が動かすことができない。魅力ある地域づくりという点での努力が必要だと思っている。もう１つは、狭い町域のなかで、東西に調整区域がある。これだけ都市化された町に、調整区域が本当に必要なのかというところで、規制緩和していけば、住宅施策としてできる面があるのではと考える。社会解決として、企業や地域等が協力して解決していくということにおいては、まだまだ働きかけていかないといけなく、努力だと思う。こういった部分については行政懇談会を各地域で重ねており、行政が解決することはできても、一緒に解決とするところまでは至っていない。企業においても、そういった場も持つが、そこまでは至っていない。ワークライフバランスの関係もあるので、そういった関係を密にしたいと考えている。

会　長）次の資料２の議論にも関わってくるご意見もでているので、議論を先に進めたいと思う。資料２の説明を事務局にお願いする前に、簡単に大枠の説明をします。1 枚目については、総合計画と総合戦略の関係性を大枠で見るというものです。2 枚目については議論をしていただくことになると思う箇所である。基本的方向として、先ほどご紹介いただいたものから紐付けをした具体的な施策になる。またその中の KPI、鍵となる数値目標を議論していただくことになると

思う。

（事務局より資料２播磨町総合戦略骨子（案）について説明）

会　長）１枚目については、現状こういう柱が立っていますという説明。１枚目の基本目標を見てみると、まち・ひと・しごとを軸にして４つ目標をたてている。その内、「ひと」が２つあるが、人口の自然増と社会増とわかれた議論になる。ベースとなっているのは総合計画であり、総合計画の中でピックアップしてきたものが、総合戦略としてまとめられている。２枚目が意見をいただきたいところになる。最初の括りが自然増について、２つ目の括りがくらし、まちに関することだが、これについては４番目の括りにも出てくるところになる。３番目の括りが企業との交流の促進ということと女性の社会進出もあり、括り方によっては１番とつなげたほうがいいところもあるが、企業交流に重点を置いていただきたい。事務局に質問ですが、【新規】と上げているものはすべて実行するのか。

事務局）【新規】で上げているものは、現事業の中で上がっていないものである。これらについては、戦略の中で新規事業としてやっていきたいという意味で上げている事業である。今後の実現については内部の協議で決定するものと理解していただきたい。

会　長）新規事業について、すべてを実行するとは決まっていないということで見ていただければと思う。

委　員）播磨町に住み続けたい、住みたいということで、住みやすさに重点を置き様々な施策を考えていただいている。ただ、一住民として、また聞いてきたことを素朴な疑問として言うなら、播磨町も含めて加古川エリアについて、非常に車が多い。その中でも人工島へ出入りする車が非常に多い。ベッドタウンとして、生活空間としての位置づけで、何を除去するかを考えるなら、車を減らすことだと思う。人口島の出入りの車は、幹線から出入りしてもらうことや、通学路や生活道路は通らないというルールになっていると思うが、守られていないというのが現状である。そして、信号待ちの車両のタバコのポイ捨てが驚くほど多い。ヨーロッパのように生活空間の中では車がスピードを出せないような道路もある。住みたい、住みやすいと町民が思う取り組みが大事だと思う。野焼の禁止や産業廃棄物の焼却の禁止等、小さなことをきっちりと除去することが大事。少しでも車を減らしてほしいというのが若いお母さんの願いでないか。事故の多い町では安心して子育てできないと思われてはいけない。

町　長）生活道路の通過交通については、行政懇談会でもよく聴いている。企業に要請はしているが、個人が利用する車両ということで、徹底ができていない。町として、マイカー利用を減らすという取り組みとしては、高齢者の運転免許証の返納の優遇措置を設けており、公共交通を利用していただけるような取り組みや、バス事業者には路線バスの増便、延伸をお願いしている。モラルやマナーの部分については、まだまだ徹底できていない部分もあるが、今後、公共交通の環境を良くしていきたいと思っている。規制については、法律や条例では定めているが、指導は、県の方にもご尽力をいただいているが、町においても速やかに対応できる体制をとっていきたいと思っている。安全で安心して住める町・地域づくりであると思うので、今後の施策の中で努めていきたいと思う。

委　員）もう１点、禁煙も含めてお願いしたい。

町　長）禁煙については、まず足元からということで、今年４月から敷地内禁煙をした。異論はあるとは思うが、役場から取り組みを行って、社会的に広がれば良いと思う。

委　員）骨子３番目の町民と企業の交流促進について、町民と企業との交流の前に、企業同士の交流、異業種交流等を先にしなければ、町民との交流にはつながらないと思う。実際、町民の中にはどんな企業があるか等知らない人が多いと思う。例として、小野市のやっている北播磨ビジネスフェアというものがあり、大規模企業交流会というものがある。趣旨としては、農商工関連の連携で、展示物を出し、実際に事業提携していこうというものである。播磨町でも地場産業を作ろうとしていると書かれているが、どちらを向いているのかがわからないので、ビジネスフェアのような催しを開催し、どんなものを作るだとか、どこと提携するのかを企業が意見を出し合い、その中で出来上がったものを、PR の画像なり冊子を作って町民に見せたうえで、話かけていった方が答えは返ってくるのではないか。ただ PR 映像を作るだけでは、町民は見ない。具体的な目に見えるものを作ってはどうかと思う。

会　長）町レベルでは企業との交流というところにあまり手がついていなかったということで、活動の余地があるということだと思う。

町　長）企業との交流や意見交換の場について、行政と企業との交流は、10 社会という組織があり、そこの自己紹介を聞くと、日本でも特異な技術を持った企業が多かった。PR 映像は、播磨町には、そういった企業があるということを知っていただくために作る。わかりやすい映像で作成することによって、知識が深まると考えている。若者に見ていただき、地元で就職して定住につながればと思う。ビジネスフェアについては、来年４月に土山駅にオープンする交流スペースで PR 活動をしていただきと考えている。映像により、播磨町の企業・産業と町民が触れ合う機会をできるだけ多く持ちたいと考えている。その１つが土山駅前の交流スペースになることを期待している。また、商工会との連携も深めていきたいと考えている。これは町だけがやることではなく、商工業の関係者と共に新たなものを展開しなければならないと思っている。いただいた意見については、参考にしたいと思う。

委　員）補足ですが、1 年前から商工会では、数社の異業種交流が立ち上がりつつある。今後参加企業を増やしていきたいと考えている。兵庫大学の教授をお迎えし、新島の企業も含めて、異業種交流を充実したものにもっていこうと考えている。

委　員）PR 冊子の作成について、播磨町内で配布するのか、近隣市町でも配布する予定があるのか。また、コミュニティバスについて、どの程度まで話が進んでいるのか。

事務局）PR 冊子については、まず、播磨町内に配布し、その後、町外の方にも知っていただきたいと考えている。コミュニティバスについては、地域公共交通会議において具体的なルート等を検討している段階である。

委　員）愛着と誇りを育てるについて、育てるという言葉に違和感がある。播磨町にしかないものとして、古代というものがあると思うがこの中には入っているのか。取り組み施策の中で PR 映像冊子を作るのは良いことだが、作成のプロセス中で、町民や企業がかかわる中で愛着や誇りが生まれてくると思うので、その点を大事にしていただきたいと思う。異業種との交流というのがあるが、教育面も変えなければならないと考えている。セクターを超えた話し合いができる

ような場所を設けていただきたい。土山駅南の交流スペースも含めて、町民の方が対話をし、どんどんアイデアを出せるような場所を作っていただきたい。ユニバーサル社会づくりというのをどこかに入れていただきと思う。戦略全体を見るとハード面の施策が多いと思う。ソフト面の施策を増やし、国や県の補助金に頼らず、自主的に頑張っている民間の人を町が支援したり、情報の提供をするようなものが少ない。そういったことを積極的に PR 冊子等に入れていただきたいと思う。

会　長）愛着と誇りの関係は「愛着と誇り」で止めてもいいかと思うので、ご検討をしていただけたらと思う。PR 映像に関して、住民、企業を巻き込んだものにすることを検討していただきたいということ。異業種交流やセクターを超えた意見交換、ユニバーサル社会づくりなどの意見があった。総合計画の中にはあるが、戦略へ引き込まれなかった内容もあると思う。

理　事）古代について、基本コンセプトにも「古代から未来へ」とあるように播磨町には古代のまちの地域資源や文化がある。それをいかに未来につないでいくかということで、様々な取り組みを総合計画の中で行っている。セクターを超えた意見交換、異業種交流については、土山駅南の交流スペースや商工会等と協議をしながら、進めていきたいと思う。住民参加について、住民の方自らが、考えていただき、活動・行動していただくような意識の醸成にも努めていきたいと思っている。ユニバーサル社会づくりも、取り組みをしているが、盛り込めるところがあれば、盛り込みたいと考えている。

委　員）具体的な施策のこうのとりタクシー券について、出産時は安心できるが、夜間急病等は該当しないのか。出産だけのクローズアップというのはもったいないと思う。検討していただきたい。地元枠採用の拡大の要請については、行政がお願いをしてどれくらいの規模があるのか。町内企業は少ないのではないかと思う。

事務局）こうのとりタクシー券については、今後検討していくなかで、いろいろと考えていきたい。町内企業というのは、新島も含まれており、企業の本社採用ではなく地元採用をお願いするということである。

委　員）病児保育、企業内保育といったものも、今後必要になってくるのではないか。産業の方向性がどこへ持っていきたいのかがわからない。様々なものがある中で、特に際立ったものをどう作っていくのか。神戸市だと、ロボット、医療産業といったものがあるが、そういうものをここで考えていくべきなのか検討いただきたい。学習の関係で、学習支援といったものがあまりないように思う。貧困家庭に対する対応の観点からみると、貧困から貧困に結びつく確率が高いと言われている。それを断ち切る方法としては、学習支援というのは重要な手段になっていくのはないかと思う。

委　員）現在、企業に勤め、妊娠出産に伴い育児休業を取得され、その後に退職される方が多いのですが、保育園の待機児童はどれくらいあるのか。

委　員）愛着と誇りについて、大学生の子供に播磨町が好きかと聞いたら、答えがなく、将来は出ると言われたのがショックだった。地元ではないが、人生で一番長い期間播磨町に住んでおり、少なくても自分は播磨町に誇りを持っていると思っていたが、自分の子供には愛着がないというのが意外で、どうすれば地元に愛着を持ってもらえるかということを考えた。３人子供がいるが、もし播磨町ではなかったら主人の単身赴任先へ子供を連れて行っていたと思う。中学校

給食も始まり、医療費助成も非常に助かっている。子育て支援センターの先生方にも助けてもらいながら、この町に住んでて本当に良かったと思う。

町　長）学習支援については、10 年以上前から、教科専門指導教諭を置いている。またスクールアシスタントも配置している。そういった部分をもう少し発展させたものが、サポートチーム播磨という提案である。待機児童については、年度当初については０だと聞いているが、年度途中で発生してくる。今後も幼稚園のあり方というのも検討する必要があるので努力していきたい。ふるさとへの愛着と誇りについては、育てないといけないと考えている。子供達が、播磨町や播磨町の先覚者のジョセフ彦や、今里伝兵衛を知らない子が多い。それは親も新しく引っ越してきて知らないからだと考えている。それをわかりやすい映像を使用し、子供たちに伝えていきたいと考えている。映像について、プロセスが大事だというお話をいただいたが、限られた時間の中で住民の方の意見は十分取れなかったが、作成中である。PR ポスター冊子については、情報は知らないと情報でないので周知していきたい。学校の先生の話によると、リピーター、いわゆる生徒が保護者となって帰ってくる例が多いと聴く。それは播磨町内で良い原体験を持って、愛着を持っているからであると考えている。ただし、これは何も手を打たなければ何もないまま卒業していくので、義務教育の間に、幼児の時期から良い原体験を重ねていただきたいと思う。

４　閉会